



2008 年 (平成 20 年)
6 月号 (No. 757)

社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価 1 部 150 円

URL ● <http://www.jac.or.jp>

e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目次

平成20年度第1回通常総会	1
平成19年度事業報告	4
収支計算書・正味財産増減計算書	5
貸借対照表・財産目録	6
財産目録記載外のその他物品リスト	7
創立100周年記念事業収支	8
08年度自然保護全国集会開催	9
東西南北	10
百年史を飾ったウェストン氏講演会 ——その入場券の顛末	
海外遠征——小笠原の旅	
活動報告	12
医療委員会／山岳地理クラブ	
支部だより	13
岐阜	
図書紹介	14
図書受入報告	15
会務報告	16
ルーム日誌	17
会員異動	17
新入会員	17
INFORMATION	18
さんけん通信	19

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 10～20時
水・金 13～20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10～18時
夏季休室 8月9日～8月17日

平成20年度第1回通常総会

組織改革への準備進む

平成20年度第1回通常総会が5月17日午後2時から東京・四谷の主婦会館プラザエフで開かれた。

会員154人が出席し、①平成19年度事業報告、②平成19年度収支決算・財産目録の承認、③創立100周年記念事業特別会計決算及び剰余金処分、④平成20年度除籍予定者——について審議した結果、いずれも原案どおり可決承認した。(事業報告等の詳細内容は別掲)

■定足数について

新法だとう席者足りず流会

この日の総会には2361の委任状が提出された。総会通知を発

送した時点での在籍者は5434人。出席者・委任状提出者を合わせると、会員の3分の1を上回って総会は有効に成立したが、宮下会長は「新しい法律では、総会は会員の過半数でもって成立し、議案の承認には、その過半数が必要。これにしたがえば、今日の総会は流会となる」と注意を喚起した。

■事業報告・収支決算

減価償却をはじめて実施

議案審議を開始した。宮崎絃一総務担当理事が事業報告を、吉永英明財務担当理事が収支決算・財産目録等を説明した。

「事業報告」・公益事業Ⅱ登山・講演会・シンポジウムなどを開催し

た。4月には宮崎支部が子ども登山教室を、6月には信濃支部がウエストン祭を、7月には山梨支部が山の博覧会、越後支部が高頭祭を実施した。医療委員会が8月にシンポジウム「高所登山における突然死を考える」を、10月には資料映像委員会が全国山岳博物館等連絡会議を開いた。11月から2月にかけて、指導、青年部委員会による講習会が相次ぎ、「雪山救助現場の実際」、緊急救命法講習会、ロープワーク講習会、雪崩・雪上技術講習会などが行なわれた。

自然保護・山岳環境保全として

は、関西支部の四国中央分水嶺踏査が最終年を迎えた。北海道支部が高山植物盗難防止パトロールを

実施、熊本支部が森林保全巡視員講習会を開催した。9月には静岡

と山梨支部が、それぞれ富士山で清掃活動を展開。自然保護全国集会は11月に西湖で行なわれた。森づくりは、全国に広がり自然保護委員会が高尾、青森支部が白神、東海支部が猿投、岐阜支部が小津権現山、山陰支部が大山で行なった。宮崎支部は水源の森づくりを実施。

●一般事業・会員のための事業Ⅱ

集会委員会が若葉山行、北信三山放射状登山、紅葉山行、豪州コジウスコ山登山などを実施。全国支部懇談会は10月6～7日、岩手で、年次晚餐会は12月1日に高輪プリンスホテルで実施した。海外登山隊は、石川支部がインド・ヒマラヤのマーン峰、関西支部はクビツアンボ源流域学術調査、東海支部

がインド・ヒマラヤのシャルミール峰、広島支部が霸王山、福岡支部が東チベットのゲム・ソング峰に派遣した。

当期収支は黒字維持

【収支決算等】大きな特色は減価償却を実施したことだ。対象はルーム、山研など。今後、一般法人になるにせよ、公益法人になるにせよ、企業会計と同じように減価償却を実施して収支を明確にするように指導されているためだ。

19年度決算は、収入合計が8647万円だった。うち会費・入会金は6286万円で収入全体の72・7割を占めた。入会金収入は104人分。通常会員の会費納入率は97・5割の高率を維持している。その他事業収入はグッズの販売など。補助金100万円は電源開発からのマッキンリー基金への助成金で、あと2年間続く。退職金支払いのため退職給与引当金取り崩しを雑収入に計上している。

支出は7523万円。事業費が4696万円、管理費は2891万円。管理費を削減、事業費が多くなるよう心がけている。事業費のうち、海外登山補助金は一部返却があり予算を下回った。その他

事業費は支部補助金、グッズ用品の仕入れなど。管理費では、旅費交通費を会長は5割、副会長は3割などを自己負担するなどで大きく減らした。福利厚生費は年金の負担増。その他管理費でコピーリース料などを削減。特定預金支出では、秩父宮記念賞基金を19年度は積み立てしなかった。当期収入から支出を差し引いた当期収支差額は199万円となった。

正味財産3億4633万に

正味財産増減計算書が大きく変わった。これまでは増加だけだったが、19年度は減少が加わった。減価償却を実施したためだ。減少額は退職給与引当預金の取り崩しなどを含め約8500万円。この結果、正味財産額は4億2775万円から3億4633万に減少した。貸借対照表では、その他固定資産の建物、什器備品、発電装置が減価償却のため正味財産増減計算書に記載している分減価している。

減価償却実施額

過年度分含め7984万円

減価償却の実施額は、計算書類に対する注記で詳細に記載している。昭和53年に取得した市ヶ谷の

事務室・集会室・図書室は、耐用年数を50年とし、残価率10割の定額法で実施、過年度分として1391万円、19年度分は47万円を償却。平成11年取得の104号室は耐用年数23年、残価率10割の定額法で過年度分116万円、19年度分77万円を償却した。

平成5年建設の上高地山岳研究所は耐用年数を鉄筋コンクリート部分は50年、木造部分は22年とし、残価率10割の定額法で過年度分5339万円、19年度分381万円を償却した。平成11年に設置した水力発電所は耐用年数20年、残価率10割の定額法で過年度分として127万円、19年度分は17万円を償却。

什器備品は、いずれも耐用年数を過ぎていたので残価率10割の額とし、取得後20年以上経過した木製書架、16ミ映写機ほか5点（取得価格364万円）は除却。

これらの結果、建物、ミニ水力発電装置、什器備品は1億7327万円の取得価格に対し減価償却累計額は7984万円となり、当期末残高は9342万円となった。

共有持分地価

1平方メートルあたり86万円



154人が出席、ほぼ満席となった総会会場

財産目録に記載した固定資産の土地7495万円は、事務所・図書室・104号室の宅地持分に対するもの。共有持分として合計87・26平方メートルあり、1平方メートルあたり85・9万円となる。「相続税路線価129万円、固定資産税評価額68万円と比べ、共有部分であることを考慮すると、やや高めか」と報告した。

監査報告

これらに対し深川安明監事から収支計算書等が正確かつ妥当であり、また理事の業務執行が誠実に行なわれたことを認める監査報告があった。深川監事は、口頭で①金融口座が多いので整理統合する、②終身会員の会費取り崩しについて規定整備を図る、③会長らが旅費の一部を自己負担したことが、



総会であいさつする宮下秀樹会長

さらに経費削減につながっていくことを期待したい」と要請した。

■20年度除籍予定者 対象者は101人

平成20年度の除籍対象者は101人。会費を18・19年度の2年間滞納している会員が対象となる。20年度も納入しないと除籍となる。実際の除籍者は例年40～50人。昨年は対象者91人で実際に除籍となったのは41人だった。1年間分でもいいから会費を納めて留まってもいいという要請があった。

■100周年記念事業

余剰金37万円を一般会計に
100周年記念事業特別会計の決算報告があった。事業費総額1億599万円。募金、寄付金、企画・

協賛収入は7184万円。支出は、登山隊補助1010万円、プロック別式典補助200万円、記念式典1710万円、森づくり補助327万円など。剰余金37万円を一般会計に繰り入れることにした。

■新支部長紹介 北海道、石川、富山、福島

新しい支部長が紹介された。北海道は滝本幸夫氏(5993)、石川は中川博人氏(7463)、富山は山田信明氏(9899)、福島は太谷司氏(9269)。滝本北海道支部長は「昨年11月、4人の岳友を亡くした。今年は鎮魂の年だ。一周忌を終えて活動を再開したい」と語った。

総会終了後、懇親会を開いた。神崎忠男副会長が音頭をとって乾杯し和やかな歓談を続けた。

■質疑・応答

会員は矜持をもって行動を

柴田篤志会員(4932) 総会を年2回開催するようになったが、間隔が短い。上期と下期に分け11月と5月に開くようにすればどうか。また退会者が多い。復活の際の入会金を減免してはどうか。

宮下会長 文部科学省から3月までに予算を、5月までに決算を

持つてこいと指導されているので、現在のように開催しなければならぬ。復活入会金は考えてみたい。

伏見紀子会員(5390) 国際

交流をきちんと行なっていますか。担当者はいるのでしょうか。

宮下会長 きちんとやっている

と思っている。外国からの招聘などに対し、その都度対応している。

山口善弘会員(10699) 自然保護委員会からのアンケートに

回答した。結果は公表されるのか。

山川陽一理事 約1900通の

回答を集計し、自然保護全国集会で速報した。会報『山』、機関紙『木の目草の芽』に掲載、対外向けに報告書も作成し、希望者には配布する。

都甲登好会員(12057) 会

員から海外登山勧誘のパンフレットが送られてきて扱いに困った。

吉永常務理事 友だち同士で行

くというのとは違う。旅行業法に抵触しかねない。平山・前会長は「政治と商売を持ち込むな」とよく言っていた。会員は、矜持をもって行動してほしいと思っている。

野田憲一郎会員(5805) 収

益事業は課税されないか。

吉永常務理事 公益法人でも収

益事業をやっていることになって

いる。減価償却負担などで平成25年まではマイナス収支となる見込みなので課税されることはない。

消費税も売り上げ1000万円までは課税対象とされない。

大森弘一郎会員(4532) 事

業報告をみると公益事業が多いが、公益法人への移行は、このペースで大丈夫だろうか。

宮下会長 一般法人か公益法人

か、どちらがいいのか、まだ判断がつかないが、より困難なものへの挑戦を第一に考えていきたい。

(文・高橋重之、写真・神長幹雄)

総会委任状提出のお願い

今回の総会には出席者154名、委任状出席2361名で成立しました。定款は「総会の会員現在数の3分の1が出席しなければその議事を開き、議決する意思がでないものは出席者数とみなす」と規定を充たして成立しました。しかし最近の総会では、当日の出席者数は別と意識が活動活性化のためにはまず、会員各位の参加は必ず、総会案内に同封してお願い致します。

(総務担当理事 宮崎紘一)

- 〃 鈴鹿山系全山環境調査登山 (東海支部)
 〃 「夜叉が池」環境パトロール (岐阜支部・福井支部)

(3)出版等

- *山岳第102年(2007年)の発行
 *会報743号～754号の発行
 *インターネット・ホームページの更新
 *海外向英文誌「Japanese Alpine News」第8号の発行
 *青年部会報「きりぎりす」の発行(年1回)
 *自然保護委員会会報「木の目草の芽」刊行(年6回)
 *「山旅徹底ガイド」(改定版)の刊行(東海支部)

(4)その他目的を達成するための事業

- *第9回秋父宮記念山岳賞の授与
 *第2回今西錦司賞の授与(京都支部)
 *海外登山基金による海外登山の助成
 *山岳図書の整備・拡充
 *山岳遭難の予防と対策に関する関係団体との協議
 *国内関係団体(日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会・HAT-J・その他)との連携
 *海外登山団体との情報交換及び機関誌の交換等
 *国内博物館・美術館との提携
 *「上高地山岳研究所」の運用
 *ミニ水力発電の運用

2. 一般事業及び会員のための事業

(1)登山、集会、施設の運用等

- 4月28日 上高地山研開所(山研) 上高地
 5月15日 第15回山を語る(水越武)(図書) 本会
 5月25～27日 若葉山行(集会) 佐渡島
 5月31日 講演会「アングスとカナダの登山事情」 本会
 6月2～3日 新入会員のための焼岳登山とウェストン祭(山研) 本会
 8月4～7日 北信三山放射状登山(集会) 高妻山・黒姫山・飯綱山
 9月22～23日 上高地星の会とオータムコンサート(山研) 上高地
 9月27日 第36回山岳史懇談会(図書) 本会
 10月14～16日 紅葉山行(集会) 燧ヶ岳・会津駒ヶ岳
 10月6～7日 第23回全国支部懇談会(岩手支部) 八幡平
 10月20日 新入会員オリエンテーション(総務) 本会
 10月26日 第16回山を語る(図書) 本会
 11月5日 上高地山研開所(山研) 上高地
 11月11日 学生部所属大学山岳部マラソン大会(学生) 皇居一周
 12月1日 平成19年度年次晩餐会(総務) 高輪プリンスホテル
 12月2日 晩餐会記念山行(集会) 大山
 12月30～1月4日 冬季開所(山研) 上高地
 1月10～16日 オーストラリア・コジウスコ山登山(集会)
 1月12～14日 スキー懇親会(集会) 野沢温泉
 1月19日 第38回山岳図書を語る夕べ(図書) 本会
 3月1日 第25回図書交流会(図書) 本会

(2)海外登山等

- 7月～8月 インド・ヒマラヤ マーン峰登山隊(石川支部)
 7月～9月 クビツェンボ源流学術調査隊(関西支部共催)
 10月 インド・ヒマラヤシャルミリ峰登山隊(東海支部)
 10月 覇王山登山隊(広島支部)
 11月 東チベット ゲム・ソング峰登山隊(福岡支部)

(3)会議等

- *通常総会の開催(5月19日・平成20年3月22日)
 *理事会の開催(11回)
 *常務理事会の開催(11回)
 *支部長会議(5月19日・9月8～9日・12月)
 *支部事務局担当者会議の開催(2月16～17日)
 *評議員会の開催(4月21日・6月8日・10月27日・平成20年3月15日)

(社)日本山岳会 平成19年度事業報告

平成19年4月1日～平成20年3月31日

1. 公益的事業

(1)登山、講演会、シンポジウムの開催等

- 4月 講演会「インド・ヒマラヤ」カバディ氏(東京・名古屋・関西 石川)
 4月28～29日 第10回子ども登山教室(宮崎支部) 諸塚山
 6月2～3日 第61回ウェストン祭(信濃支部) 上高地
 6月10日～7月5日 2007年度第18次マッキンリー気象観測機器設置登山隊(科学) アラスカ
 6月22日 山岳映画会「白き氷河の果てに」(資料映像) 本会
 6月27～28日 教職員研修 集団登山引率者講演会(高山支部) 立山
 7月7日 第3回山の博覧会「山を知ろう 山へ行こう」(山梨支部) 山梨学院大学
 7月5～6日 全国山岳遭難対策協議会(指導) 富山市
 7月22日 第6回青少年体験登山(東九州支部) 九重山群
 7月25日 第50回高須祭(越後支部) 弥彦山
 7月25～26日 少年少女登山教室(青森) 大駒ヶ岳
 7月26～29日 第8回自然児学校(北海道支部) 新冠町
 7月～8月 上高地インタープリタ活動(自然保護共催) 上高地
 8月8日 シンポジウム「高所登山における突然死を考える」(医療・指導・海外) 四谷
 8月11～12日 白山親子登山(福井支部) 白山
 9月21日 宮崎家裁少年補導受託登山(宮崎支部) 双石山
 10月8日 松本市民記念トレッキング(信濃) 徳本峠
 10月13・20日 親と子のふれあい登山教室(東海支部) 尾高山
 10月27日 スペシャルオリンピックス(知的障害者との登山)(東海支部) 鈴鹿ハット
 10月20日 全国山岳博物館等連絡会議(資料映像) 松本市
 11月3日 宮崎ウェストン祭(宮崎支部共催) 高千穂町
 11月6日 講演会「雪山救助現場の実際」(指導) 東京体育館
 11月26日 山岳映画会「交響詩立山」(資料映像) 本会
 12月8日 救急救命法講習会(指導) ブラザエフ
 1月16日 ロープワーク講習会(指導・青年) 本会
 2月21～28日 日中韓学生交流登山2008(学生) 梅池
 2月23～24日 雪崩・雪上技術講習会(指導・青年) 関温泉

(2)自然保護・山岳環境保全

- 4月14日 春の大山一斉清掃(山陰支部)
 4月～11月 四国中央分水嶺踏査(最終年・関西支部)
 5月20日 「よみがえれ支笏湖の森」植樹に参加(北海道支部)
 6月17日 杉峠登山道整備(石川支部)
 6月17日 「山のトイレを考えるフォーラム in 福岡2007」(福岡支部)
 6月20日 高山植物盗掘防止パトロール員を対象とした研修会(北海道支部)
 6月～9月 高山植物盗掘防止パトロール受託事業(北海道支部)
 7月6日 森林保全巡視員講習会(熊本支部)
 7～8月 山岳レインジャー活動(山梨支部)
 9月2日 富士山ごみ減量大作戦(静岡支部)
 9月8～9日 第4回山梨県富士山清掃活動(山梨支部)
 9月～11月 奥匹見登山道整備(広島支部)
 9月～11月 加越国境等登山道整備(石川支部)
 9月29日 自然観察会(於:赤沢自然休養林 自然保護)
 11月10～11日 第11回森の勉強会(東海支部・京都支部・関西支部)
 11月17～18日 自然保護全国集会(於:西湖 自然保護・山梨支部・静岡支部)
 2月2日 山岳環境講演会(自然保護)
 通年 「高尾の森づくり」(自然保護)
 〃 「白神山地再生育林」(青森支部)
 〃 「狼投の森づくり」(東海支部)
 〃 「小津権現山」県民の森づくり受託事業(岐阜支部)
 〃 「大山」横手道上ブナ林育成支援(山陰支部)
 〃 森林保全巡視受託事業(北九州支部・熊本支部)
 〃 「水源の森づくり」(宮崎支部)
 〃 環境省「吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会」への参加(関西支部・自然保護)

収 支 計 算 書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

銀行振込手数料	0	70,445	-70,445
福利厚生費	1,850,000	2,082,048	-232,048
事務所管理費	1,240,000	1,128,210	111,790
その他管理費	2,500,000	1,761,706	738,294
負担金	60,000	30,080	29,920
退職金	0	1,268,313	-1,268,313
賃借料	3,240,000	3,510,000	-270,000
雑費	600,000	741,835	-141,835
管理費計	28,240,000	28,919,046	-679,046
3 固定資産取得支出			
什器備品購入支出	0	0	0
固定資産取得支出計	0	0	0
4 特定預金支出			
長期計画積立金支出	0	0	0
秋父宮記念賞基金支出	1,000,000	-1,000,000	2,000,000
海外登山基金支出	0	0	0
終身会費積立金支出	800,000	348,000	452,000
退職給与引当預金支出	0	0	0
特定預金支出計	1,800,000	-652,000	2,452,000
5 予備費			
予備費	2,000,000	0	2,000,000
当期支出合計(C)	76,620,000	75,232,771	1,387,229
当期収支差額(A)-(C)	-2,188,000	1,990,481	-4,178,481
次期繰越収支差額(B)-(C)	7,065,283	11,243,764	-4,178,481

正味財産増減計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

科 目	金 額		
I 増加の部			
1 資産増加額			
当期収支差額	1,990,481		
終身会費積立金	348,000	2,338,481	
2 負債減少額			
退職給与引当金	1,268,313	1,268,313	
増加額合計			3,606,794
II 減少の部			
1 資産減少額			
建 物	73,532,409		
什器備品	4,871,439		
発電装置	1,445,594		
棚卸資産	111,513		
長期計画準備金	3,800,000		
退職給与引当預金	1,268,313	85,029,268	
2 負債増加額	0	0	
減少額合計			85,029,268
当期正味財産減少額			81,422,474
前期繰越正味財産額			427,754,703
期末正味財産合計額			346,332,229

貸 借 対 照 表

平成20年3月31日現在

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	81,034		
振替貯金	2,428,884		
普通預金	4,748,806		
定期預金	0		
未収会費	4,440,000		
棚卸資産	1,756,000		
流動資産合計		13,454,724	
2 固定資産			

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
I 収入の部				
1 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	2,000	19,598	-17,598	
2 会費・入会金収入				
入会金収入	3,000,000	2,080,000	920,000	
復活入会金収入	0	100,000	-100,000	
通常会費収入	60,000,000	60,340,000	-340,000	
終身会費収入	800,000	348,000	452,000	
会費・入会金収入計	63,800,000	62,868,000	932,000	
3 事業収入				
広告料収入	1,600,000	1,486,000	114,000	
刊行物売上収入	300,000	621,540	-321,540	
山研使用料収入	2,500,000	1,961,865	538,135	
その他事業収入	2,500,000	1,846,475	653,525	
事業収入計	6,900,000	5,915,880	984,120	
4 補助金等収入				
補助金収入	3,000,000	1,000,000	2,000,000	(注)1
5 寄付金収入				
寄付金収入	0	734,267	-734,267	
寄付金収入計	0	734,267	-734,267	
6 雑収入				
受取利息	30,000	414,453	-384,453	
雑収入	700,000	1,202,741	-502,741	
雑収入計	730,000	1,617,194	-887,194	
7 特定預金取崩収入	0	5,068,313	-5,068,313	
当期収入合計(A)	74,432,000	77,223,252	-2,791,252	
前期繰越収支差額	9,253,283	9,253,283	0	
収 入 合 計(B)	83,685,283	86,476,535	-2,791,252	

(注) 1 電源開発(株)「マッキンリー基金」助成金 ￥1,000,000

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
II 支出の部				
1 事業費				
出版費	11,000,000	12,395,235	-1,395,235	
図書管理費	200,000	162,891	37,109	
調査研究費	2,020,000	2,205,787	-185,787	
指導費	750,000	476,293	273,707	
支部関係費	10,000,000	10,575,401	-575,401	
海外諸関係費	170,000	197,544	-27,544	
海外登山補助費	2,000,000	1,200,000	800,000	
山岳研究所事業費	1,580,000	1,316,690	263,310	
山岳研究所運営費	2,560,000	2,547,373	12,627	
ミニ水力発電	200,000	125,000	75,000	
その他事業費	9,900,000	10,471,060	-571,060	
印刷・製本費	0	579,003	-579,003	
刊行物発送費	4,200,000	4,713,448	-513,448	
事業費計	44,580,000	46,965,725	-2,385,725	
2 管理費				
給料手当	13,000,000	13,619,780	-619,780	
文具消耗品費	100,000	110,870	-10,870	
印刷製本費	1,250,000	1,047,065	202,935	
旅費交通費	800,000	368,820	431,180	
通信運搬費	800,000	592,779	207,221	
火災保険料	180,000	184,600	-4,600	
修繕費	100,000	0	100,000	
租税公課	650,000	572,300	77,700	
光熱水料費	650,000	738,352	-88,352	
電話料	320,000	328,870	-8,870	
会議費	50,000	10,113	39,887	
什器備品費	100,000	37,500	62,500	
振替手数料	750,000	715,360	34,640	

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現 金 預 金	5,613,283	7,258,724	
未 収 会 費	5,208,000	4,440,000	
合 計	10,821,283	11,698,724	
未 払 金	1,000,000	0	
前 受 会 費	144,000	150,000	
仮 受 金	0	32,000	
預 り 金	424,000	272,960	
合 計	1,568,000	454,960	
次期繰越収支差額	9,253,283	11,243,764	

4. 固定資産の取得価格、減価償却累計額および当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
建 物	164,446,465	73,532,409	90,914,056
ミニ水力発電装置	3,816,750	1,445,594	2,371,156
什 器 備 品	5,008,232	4,871,439	136,793
合 計	173,271,447	79,849,442	93,422,005

財 産 目 録

平成20年3月31日現在

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金 現金手許有高	81,034	
振替貯金 千代田四番町郵便局	2,428,884	
普通預金 りそな銀行市ヶ谷支店	959,129	
〃 三菱東京UFJ銀行市ヶ谷支店	3,090,616	
〃 中央三井信託銀行本店	319,866	
〃 みずほ銀行市ヶ谷支店	154,427	
〃 三井住友銀行飯田橋支店	147,485	
〃 三菱東京UFJ銀行新宿支店	60,839	
通常貯金 千代田四番町郵便局	16,444	
未収会費370名	4,440,000	
棚卸資産（注）1	1,756,000	
流動資産合計		13,454,724
2 固定資産		
(1) 基本財産		
貸付信託 中央三井信託銀行	8,000,000	
基本財産合計	8,000,000	
(2) その他の固定資産（注）2		
土 地	74,953,705	
建 物	90,914,056	
敷 金	288,450	
什器備品	136,793	
発電装置	2,371,156	
長期計画準備金		
（定期預金千代田四番町郵便局）	5,043,000	
（定期預金三菱東京UFJ市ヶ谷）	21,203,305	
秩父宮記念基金		
（定期預金三菱東京UFJ新宿）	15,200,000	
終身会費積立金		
（普通預金みずほ市ヶ谷）	21,622,000	
海外登山基金		
（定期預金りそな市ヶ谷）	33,600,000	
（定期預金三井住友飯田橋）	30,000,000	
（定期預金みずほ市ヶ谷）	30,000,000	
退職引当預金		
（定期預金みずほ市ヶ谷）	3,423,307	
その他固定資産合計	328,755,772	
固定資産合計		336,755,772
資産合計		350,210,496
II 負債の部		

基本財産			
貸付信託	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
その他の固定資産			
土地	74,953,705		
建物	90,914,056		
敷金	288,450		
什器備品	136,793		
発電装置	2,371,156		
長期計画準備金	26,246,305		
秩父宮記念基金	15,200,000		
終身会費積立金	21,622,000		
海外登山基金	93,600,000		
退職引当預金	3,423,307		
その他の固定資産合計	328,755,772		
固定資産合計		336,755,772	
資産合計			350,210,496
II 負債の部			
1 流動負債			
前受会費	150,000		
預り金	272,960		
仮受金	32,000		
流動負債合計		454,960	
2 固定負債			
退職給与引当金	3,423,307		
固定負債合計		3,423,307	
負債合計			3,878,267
III 正味財産の部			
正味財産			346,332,229
（うち基本金）			(8,000,000)
（うち当期正味財産減少額）			(81,442,474)
負債及び正味財産合計			350,210,496

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- 固定資産の減価償却について
事務室・集会室・図書室：耐用年数50年・残価率10%の定額法によった。
過年度分 13,911,709円
当年度分 475,614円
104号室：耐用年数23年・残価率10%の定額法によった。
過年度分 1,162,362円
当年度分 774,908円
上高地山岳研究所：鉄筋コンクリート造部分耐用年数50年・残価率10%、木造部分耐用年数22年・残価率10%の定額法によった。
過年度分 53,393,962円
当年度分 3,813,854円
ミニ水力発電装置：耐用年数20年・残価率10%の定額法によった。
過年度分 1,273,841円
当年度分 171,753円
什器備品：いずれも耐用年数を経過しているため、残価率10%の額とした
（但、取得後20年以上経過した木製書架、16mm映写機ほか5点、取得価格合計3,640,300円は除却）。
- 引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の121%に相当する額を計上している。
- 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費、預り金、仮受金及び未払金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

2. 基本財産の増減額及び残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託				
（中央三井信託銀行）	8,000,000	0	0	8,000,000
合計（基本金）	8,000,000	0	0	8,000,000

モンブラン	エッチング	シュラギトワイト	松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ遠望	エッチング	本 会	本 会
ユングフラウ	油	山里 寿男	伯耆国山岳美術館
潤沢より北穂高	水彩-6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
初夏の槍ヶ岳	油-10	中村 清太郎	本 会
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎 千代二	本 会
北穂高岳滝谷	油-25	足立 源一郎	本 会
或朝の槍ヶ岳	油-25	足立 源一郎	伯耆国山岳美術館
北穂高主峰	油-25	足立 源一郎	本 会
朝の槍ヶ岳	油-P8	足立 源一郎	本 会
タンボチエの僧院	水彩-4	清野 恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩-4	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬の山 (清太山)	墨絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
梓川秋色	油-12	後藤 三男	本 会
早朝の上高地山岳研究所	版画-8	松田 敏男	上高地山岳研究所
旧上高地山岳研究所	水彩-10	松田 敏男	上高地山岳研究所
焼岳秋趣	版画-8	鈴木 正俊	伯耆国山岳美術館
ナムチャバールワ峰暮色	油-10	神原 忠夫	伯耆国山岳美術館
白馬雪田	日本画	丸山 暁霞	本 会
上高地秋景	油-F20	後藤 三男	上高地山岳研究所
マチャブチャレ	油-20	武井 清	本 会
朝霧	水彩-8	越智 英夫	本 会
白樺の林	油-6	茨木 猪之吉	本 会
麓春	油-P50	倉員 辰雄	本 会
ヒマラヤダーズリンにて	油-F4	上野 春香	伯耆国山岳美術館
タムセルク	油-30	武井 清	本 会
安曇野の春	油-30	後藤 三男	松本アルプス山岳館
ヒマラヤの古都	油-30	藤江 幾太郎	本 会
アルバータ	油-6	レオン・アマン	本 会
ケルン	油-6	金光 義朗	上高地山岳研究所
山	油-6	辰沼 広吉	本 会
アルバータとピッケル	水彩	カナダ山岳会	本 会
題名不詳 24枚	油-10	茨木 猪之吉	本 会
題名不詳 8枚	油-6	茨木 猪之吉	本 会
題名不詳 12枚	水彩	茨木 猪之吉	本 会
スケッチブック	32冊	茨木 猪之吉	本 会
ロンブクよりエベレスト	版画	H. ソマベル	大町山岳博物館
白馬残照	版画	鈴木 正俊	本 会
穂高連峰	版画	小暮 真望	本 会
安曇野と常念岳	版画	小暮 真望	本 会
尾瀬と燧ヶ岳	版画	小暮 真望	本 会
谷川岳	版画	小暮 真望	本 会
シダゴ山 晩秋	版画	鈴木 正俊	本 会
檜洞丸山荘	版画	鈴木 正俊	本 会
世界の名山36峰ペン画集	ペン画	牧 潤一	本 会

(他の絵画、写真 省略)

2. 図 書

和 書	平成19年度受入冊数	106冊	蔵書計	11,500冊
洋 書	平成19年度受入冊数	19冊	蔵書計	3,816冊

3. フィルム・ビデオ

フィルム	15点	「マナスルに立つ」	他
ビデオ	280点	「映像史 ヒマラヤへの道」	他
DVD	5点	「エベレスト征服」	他

社団法人 日本山岳会 平成19年度の収支計算書、正味財産増減計算書貸借対照表、および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。

平成20年 4 月15日

社団法人 日 本 山 岳 会

監 事 深 川 安 明
監 事 竹 中 彰

1 流動負債			
前受会費平成20年度会費 13名分	150,000		
預り金職員に対する源泉所得税その他	272,960		
仮受金	32,000		
流動負債合計		454,960	
2 固定負債			
退職給付引当金	3,423,307		
固定負債合計		3,423,307	
負債合計			3,878,267
正味財産合計			346,332,229

(注) 1 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	「山岳」総索引、「山岳」覆刻版 等	711,320
服飾品、その他	クラブタイ、ワッペン 等	1,044,680
合 計		1,756,000

(注) 2 その他固定資産内訳

1. 建物および土地

A. 事務所および土地 (S53.124 及び H17.10.30 取得)			
場所	東京都千代田区四番町5番4号		
構造	鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付5階建 (事務所) 区分所有建物1階部分103.32㎡ (専有部分) 宅地持分1,124.56㎡×339/10,000		(取得価格) 土地 74,953,705
	=38.122584㎡		
	(図書室) 区分所有建物1階部分55.22㎡ (専有部分) 宅地持分1,124.56㎡×176/10,000		建物 46,446,465
	=19.792256㎡		
	(104号室) 区分所有建物1階部分80.36㎡ (専有部分) 宅地持分1,124.56㎡×261/10,000		(当期末残高) 105,075,577
	=29.351016㎡		
	計238.9㎡宅地持分87.265856㎡		
B. 上高地山岳研究所 (H5.8.21 取得)			
場所	長野県松本市安曇4469番地1		(取得価格) 118,000,000
構造	木造2階建地下1階 (一部コンクリート造) 1棟 274.09㎡		(当期末残高) 60,792,184
C. ミニ水力発電装置 (H11.11.30 取得)			
場所	長野県松本市安曇 4469 番地 1 (上高地山岳研究所)		(取得価格) 3,816,750
構造	1kw発電用		(当期末残高) 2,371,156
合 計			168,238,917

2. 什器備品

品 名	取得年月日	取得価格	当期末残高
シャープ液晶ビジョン一式 (事務所)	H02.07.19	587,932	58,793
ナショナル冷凍冷蔵庫 NR-041VP2-H (山研)	05.03.20	250,000	25,000
ナショナル29インチテレビ TH-29VS35 (山研)	05.03.20	280,000	28,000
ナショナルBS付ビデオ HV-BS50S (山研)	05.03.20	250,000	25,000
合 計		1,367,932	136,793

財産目録記載外のその他物品リスト (主として受贈品)

1. 絵 画

題 名	種類・号数	作 者 名	掲載・保管場所
シュラギトワイト・アトラス	リトグラフ	シュラギトワイト兄弟	本 会
白馬岳	油-A50	中村 清太郎	大町山岳博物館
富士山麓	油-A25	茨木 猪之吉	河口湖町立美術館
田代池の白樺	油変形-6	中村 清太郎	本 会
群狼	墨絵	石井 鶴三	本 会
伊豆半島	油-10	茨木 猪之吉	松本アルプス山岳館
針の木峠より	油-10	茨木 猪之吉	本 会
徳本峠から穂高連峰	墨絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油-10	茨木 猪之吉	本 会
鳥 (カット原画)	墨絵	石井 鶴三	本 会
メールドグラス	エッチング		本 会

創立100周年記念事業 収支

平成20年3月末現在

平成15年4月～平成20年3月31日

1. 収支決算書

支 出		収 入	
科 目	金 額(円)	科 目	金 額(円)
登山隊助成金	10,100,000	百周年募金	66,761,229
ブロック別式典補助	2,000,000	寄付金	883,000
支部記念事業補助	2,711,000	企画・協賛収入	4,200,000
記念フォーラム	1,842,161	仕入代金戻し金	
記念式典補助	680,000	(GPS/TOPO)	3,272,360
森づくり補助	3,277,386	(カシオ時計)	14,616,000
GPS及びTOPO仕入代金	4,342,884	晩餐会会費収入	13,800,000
記念品代金(カシオ時計)	12,496,680	刊行物売上収入	1,641,290
式典費用	17,103,184	広告料収入	808,500
施設費用(注)1	13,916,500	受取利息	14,084
旅費交通費	3,295,841		
資料購入代	690,497		
事務用品費	671,442		
通信運搬費	3,208,021		
会議費	136,310		
印刷費	22,780,885		
郵便振替手数料	577,210		
募金免税手数料	1,485,550		
雑費	4,308,804		
次月へ繰越	372,108		
合 計	105,996,463	合 計	105,996,463

2. 貸借対照表

平成20年3月末現在

資 産		負債及び正味財産	
科 目	金 額(円)	科 目	金 額(円)
普通預金(三菱東京UFJ)	372,108	預り金	0
(三井住友)	0	仮受金	0
(みずほ)	0		
郵便振替口座	0		
現 金	0		
仮払金	0	次月へ繰越	372,108
合 計	372,108	合 計	372,108

(注) 1 施設費用のうち13,780,000円は、一般会計に繰入れた。

最新版の日本山岳会会員名簿
10月発行のお知らせとお願い

当会の会員名簿2008年版を、10月中旬に発行すべく作業中です。

名簿には従来どおり会員番号、入会年月、住所、電話番号、所属支部を掲載いたします。お名前や住所、電話番号などにつき、2003年版の名簿や、会報等が郵送される宛名をチェックのうえ、間違いや変更がありましたら7月15日までに当会事務局までご連絡ください。

登録、記載された情報については適正な取り扱いを期し、情報の不正な流出、転用を避けるため十分配慮したいと存じます。(総務委員会)

ネパール ムスタン・ホース・トレッキング 18日間
9/5 発 ¥650,000



Wec 株式会社ウェック・トレック
国土交通大臣登録旅行業1662号/日本旅行業協会正会員
〒105-0003 東京都港区西新橋3-24-8山内ビル4階
電話 03-3437-8848 E-MAIL info@everest.co.jp

新刊 山の本から汲みとる日本の山の四季の魅力!

山の本 歳時記

大森久雄 著/四六判/2,100円

日本の山は季節の彩りが豊か。そうした豊かな山の世界を描く「山の本」からその一文を選びだし、著者の軽妙洒落な語り口と写真で、新しい山の姿を伝える。季節の山と山の本を「歳時記」で結んだ書。

新刊 「山とスキー用具の店」80年ものがり完結!!

好日山荘往来(下)

大賀壽二 著/四六判/348頁/2,940円

日本山岳会の先輩で、アウトドア業界の先輩である大賀さんが、西岡一雄氏から引継いで半世紀、東西岳人との交流、用具の発展などを語る。

● 好評発売中「好日山荘往来」(上) 307頁/2,625円

〒606-8161京都市左京区
一条寺木ノ本町15

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishiya.co.jp/

TEL. 075-723-0111

FAX. 075-723-0095

[表示価格は税込]

08年度自然保護全国集会、東京で開催

自然保護委員会

4月19・20日の2日間、東京体育館で、本年度自然保護全国集会を開催。1日目は「山の環境問題に対する意識調査」の発表と討議、2日目は「いま、高山植物が危ない! 高山帯のシカの食害について考える」と題するシンポジウムが一般公開された。

初日のテーマ、先にJAC全会員を対象に実施した「山の環境問題に関する意識調査」には1912名から回答があり、これをもとに報告と討議を行なった。調査用



春に開催された自然保護全国集会

紙の回収が終わったのが3月中旬。それからデータ入力、分類、集計等の作業を経ての取りまとめであり、当日は速報的な報告に終わった。今後、さらに整理し会報「山」や『木の目草の芽』紙上に公表することになる。本調査は、日本の山岳環境の現状や問題点、登山者の環境意識を浮き彫りにしている貴重な資料である。内部資料だけにとどめておくのではなく、できるだけ早い時期に外部にも発信できる形の報告書にまとめていきたい。

なお当日、石川支部から緊急報告として予算の削減と事故責任回避のため、行政が登山道管理をボランティアに委ねようとしている実態が提起され、論議を呼んだ。

2日目のシンポジウムは、冒頭会長から「昨年の西湖の集会で高山帯のシカの食害が今や放置しておけない状態だという声が出されたことが、本シンポジウム開催のきっかけとなった。JACが単独で取り組める問題ではないが、こ

れを契機に山岳諸団体が手を結ぶことができれば素晴らしい」との挨拶があった。

プログラムは最初に富澤委員長から、前述のアンケートに緊急調査項目として追加された「シカの目撃情報」の発表があり、続いて中部森林管理局の元島清人氏から「南アルプス高山帯の食害調査結果」の発表、そして菊地俊朗（山岳ジャーナリスト・信濃支部）、塩沢久仙（南アルプス芦安山岳館館長）、西條好妣（岐阜大学准教授・岐阜支部）三氏によるパネルディスカッションと続いて、最近の高山帯のシカの食害が浮き彫りにされた。問題は、私たちに何ができるかということであるが、JAC単独で対応できる問題ではないので、これを機に山岳各団体が手をつ結んで対処できれば、大きな力になることだろう。

山岳環境の問題は、山という共通のフィールドで楽しむ登山者や、関係者の共通の課題である。私たちの活動も内部に閉じこもらないで、積極的に、外部に対して発信すること、外部と手を結ぶことを考える必要がある。そうすることによってこそ、大きな成果が期待

できると考えるものである。なお、シカの食害問題の今回の取り組みに対して、財団法人自然保護助成基金から多大な助成をいただいている。厚くお礼申し上げる次第である。参加者126名であった。

（山川陽二）

*

シンポジウム終了後、自然保護委員会が計画した支援バスツアー（フィールドスタディ「ぐんまの春」）に出発。

さて、日光へ抜けられればいいがこの時期はまだ通行止め。それならいつそ「群馬県」をテーマにしよう、3月末から4月にかけて富岡製糸場、榛名山、伊香保を見て回った。スタディを名乗るからにはと、群馬県庁や尾瀬財団を訪ねてシカ問題の聞き取りもした。今回はバスのコースも、夕食のメニューも、夜のコンサートの出演者まで、とことん「ぐんま」にこだわった企画となった。上信越の山々を眺め、桜を追いかけて、戸倉では静かな樹林の道を散策して春の息吹を満喫した。参加者41名、和気藹々の旅となった。それぞれが役割を果たしてくださったことに感謝している。

（近藤緑）

N 東 西 南 北 S

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)

『百年史』を飾ったウェストン氏講演会——その入場券の顛末

佐々木民秀

本会100周年記念事業の一つとして発刊された『日本山岳百年史(本編)』(以下『百年史』と記載)の口絵に、カラー写真で紹介されている明治45年3月9日・帝国教育委員会々場で開催された日本山岳会主催による「ウェスト

ン氏日本アルプス登山講演会」の入場券が掲載されている。この絵柄を使用されたと思われる当時の郵便ハガキ(写真)が、一昨年の秋、私の手元に残されていることに気づいた。差出人は、大阪市西区に店舗を構える石川商会で、この入場券を所持していた宮城県若柳町在住の佐藤武雄氏に宛てたもので、その消印は大正7年8月8日となっている。

ハガキに描かれている絵柄は、外人風の横顔やその帽子といい、

背景の残雪を抱く山なみも併せ、正に入場券のその絵柄とピッタリと当てはまっており、色彩もほぼ同調で、なによりも全身を覆っている登山装備・用具がリアルに描かれているのが面白い。

佐藤武雄氏は『百年史』では成沢武雄(在学中は成沢姓)として紹介されており、慶応義塾卒業後は郷里の若柳町に戻って家業の佐藤清助商店を継承され、名前も佐藤清助と襲名されている。氏の帰郷後の山登りについては、姻戚に当たる方に聞いてみたが、その気配は特になかったという。その後、東京において鉛筆業界で業績を伸ばし、当時の日本ホッケー界を育成するなど、後にロサンゼルスオリンピックに役員として出場している。

さて『百年史』の口絵に飾られた入場券といい、年会費請求書や、第4、5回大会の案内状、そして紹介のハガキなど、いったいウェストン氏と何ら縁のない秋田の地でなぜに発見されたのか……、その経緯をここに説明しておく必要がある。

今から20年程前のことであろうか。当時、すでに全国的にエンタ

イア・ブームが巻き起こっており、その最中、秋田市内の某古物商から入手した多量の郵便物の中に入っていたものである。エンタイアとは郵便局員によって集配達されたハガキや封書類のことで、実際に使用された実通便のことを指し、正式名はカバーという。その消印と使用された切手などと組み合わせ、種々雑多のさまざまな捺印と併せ、無限に近いバラエティを追求し、その研鑽と収集を楽しむものである。

当時、友人の伊藤健一氏とで、佐藤商店のエンタイアを大方買い込んだものであったが、たまたま伊藤氏の方に『百年史』に紹介された2通の書簡のうちの1通に、その入場券が入っていたのである。それを秋田支部会員の伊藤康二氏が、兄である健一氏から譲り受け、後に百年史委員会に寄託したもので、ウェストン氏講演会の入場券のみは2枚同封されていた。

この発見については、当時、本会の南川金一氏にお話し、写しを送ったところ、本会としては大変貴重な第一級の資料であり『百年史』の準備事業を始めた段階でもあるので、ぜひそれまで公表しな



いようにと頼まれ『百年史』発行まで封印していた次第である。

一昨年、伊藤健一氏の分も含め、佐藤商店のエンタィアを再度調べたが、山岳関係の書簡は見当たらず、ただ紹介のハガキ1枚と、他に、大正9年8月7日に、富士山頂局から本人に差し出された中山太陽堂主催・クラブ富士山登山会発行の絵ハガキに同クラブの記念印と登頂記念印が捺印されたもの、それに学生時代の明治43年7月29日に、富士山頂局から父母にあてたもののみであった。

なお、関連記事としては会報『山』第598号を参照願いたい。

海外遠征——小笠原の旅

川 善市

「海外遠征」といってもパスポート不要の「島の山巡り」のこと。過去、会報『山』615号に柳下練生会員、637号に故・中村太郎会員、665号に吉村健児会員がそれぞれ寄稿している。

1992(平成4)年に三宅島を振り出しに伊豆諸島や佐渡島、隠岐ノ島など2000(平成12)



父島・中央山頂上にて

年の佐渡大島(第9回)まで年に1回ペースで続けてきた。しかし、常連の他界などもあり開催が途絶えてしまっていた。このたび、吉村会員の提唱もあり、第10回として「小笠原の旅」を催した。以下は、そのレポートである。

4月7日、参加者14名は、竹芝桟橋より定期船「おがさわ丸」に乗船、父島を目指した。浦賀水道を出た辺りから揺れが激しくなり、一晩中大時化に悩まされる。翌朝のテレビニュースで、関東一帯が春の嵐に見舞われ、交通障害や住宅被害などが出ていることを知る。われわれ一行も手荒い仕打ちを受け、所要25時間30分である

航路は28時間を要し、難儀を強いられる。

9日、快晴。好天にあやかり離れ島の「南島」へ探索に出かける。この島は、父島の南部にあり自然保護のためガイド同伴で1グループ30名まで、1日に100名までという条件付きで上陸が許可されている。指定ルート以外の歩行は許されない。また、許可時間以外には立入禁止措置がとられ、手厚く保護されているようだ。午後は、島で唯一のJAC会員・延島冬生氏の案内で、島内見物を兼ねて第2の目的「中央山(316m)」へ。この山は頂上直下まで車道がついており、10分程で着いてしまった。戦時中の砲台らしき残骸があった。10日、晴れ。2時間半の快適な船旅を楽しむ「母島」に渡る。宿で用意してくれた弁当持参で「乳房山(463m)」へ。事前に母島観光協会に立ち寄り、乳房山山頂記念証発行手続きを済ます。この証明発行には、山頂にある山名標高プレート(これはグッドアイディアと思う。「乳房山」へは亜熱帯植物林の中の整備された登山道を行う。一行は、「再訪の厳しい山」を

ゆつくり4時間かけて時計回りで一周し小笠原の最高峰を堪能した。11日の帰京日は曇り。母島から父島へ向かう途中、右前方に鯨のジャンプする姿を発見! 最後の最後に想定外のホエールウォッチングに遭遇。これは往路の「難儀」を帳消しにするものだった。

小笠原は、今年返還40周年を迎えた。年内は各種記念行事が催されるという。普段は静かな山や海も、今年は賑わうのだろうか。海の青さと見送りの光景が、今でも強烈に脳裏に焼きついて忘れられない。

モンゴルの大草原を四輪駆動車で巡り、
モンゴル最大の淡水湖・フブスグル湖を目指します。

モンゴルの風にあふれて **モンゴル北部大草原
オーバーランド8日間**

旅行期間: 8/10(日)~8/17(日)

旅行代金: 418,000円 東京(羽田)発着

国土交通大臣登録旅行業第490号/社団法人日本旅行業協会正会員 © 本コンテンツ提供
アルパイン ツアーズ サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

活動報告

日本山岳会の
各委員会、同好会の
活動報告です

医療委員会

日本登山医学シンポジウム

08年度日本登山医学学会学術集会・第28回日本登山医学シンポジウムが、5月31日、6月1日の2日間にわたり、富山県の宇奈月温泉にある国際会館セレネで開催された。

黒部市民病院の高櫻英輔会長による講演は「高所環境における肥満治療の研究 山はメタボに有効か」というタイトルで、立山や富士山などで行なってきた研究を総括した。

シンポジウム①のテーマは高所環境の有効利用で、鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育研究センター長・教授の山本正嘉氏の「登山はエアロビクスの最高峰」、シンポジウム②のテーマはマウンテンメディカルレスキューで「北アルプスにおける山岳遭難救助」や「立

山・剣岳診療50年を振り返って」

といった遭難、救助の実態や金沢大学医学部が中心に展開してきた山の診療所のさまざまな問題点が報告された。阿曾原温泉小屋の佐々木泉氏による昨年の救助活動をドキュメンタリー風に報告にした特別講演には大きな拍手が送られていた。またシンポジウム②のなかで、昨年、欧米のレスキュー事情を実際に現地取材してきた関西学院大学、青山千彰氏の「欧米における山岳レスキュー事情について」の報告があり、レスキューシステム、レスキュー技術、登山医学それぞれについて、欧米より一歩遅れをとっているわが国が今後取り組むべき課題が示された。特別講演として天使大学看護栄養学研究科教授の斎藤昌之氏により「寒冷環境への応答と適応——褐色脂肪の役割」、奨励賞受賞講演として信州大学内科学第一講座の

ユンデンチョマ氏より「シエルパ族の高地適応における内皮型一酸化窒素合成酵素遺伝子の関与」が報告され、一般演題も30題余の発表があり、熱心な討論が繰り広げられた。

なお、第11回日本登山医学功労賞が登山医学研究の発展に寄与された功績により日大医学部の川久保芳彦氏に授与された。

今回は09年5月30日、31日に榊原記念病院の高山守正氏を会長として東京のカンファレンスセンター品川にて開催される予定である。

(塩田純一)

山岳地理クラブ

旧版地形図の整理

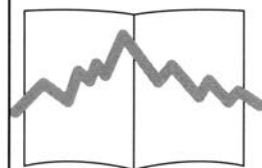
日本山岳会所蔵の旧版地形図については、会報『山』553号から556号に3回にわたり児玉茂氏が解説している。このほど山岳地理クラブが図書管理委員会の委託でそれらの地図の再確認を行ない、すべての図幅をリスト化し、データベースとして活用できるようにした。

所蔵する地図についての解説は前記に詳しいので省略するが、現

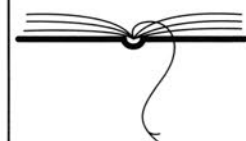
状は限られたマップケースに漠然と収められているだけなので探し出すのに容易ではなかった。これら約3000点の地図を縮尺別に図名、よみ、測量年、発行年、価格、種別、分類番号を記し、保管場所を明確にすることにより活用しやすくする事が目的である。

旧版地形図は、主に近代測量の始まった明治期に発行された、陸軍参謀本部陸地測量部、農商務省地質調査所によるものばかり。これらの貴重な地図がどのような経路で日本山岳会に収まったのか、資料がないので不明である。図書

管理委員会の松田雄一氏は、地図の寄贈者は高木菊三郎(1888-1967年)か、その家族ではないかと推測している。高木菊三郎は陸軍参謀本部に在籍していた日本山岳会会員(会員番号162、明治41年入会・名誉会員)で、北アルプスの地図を作ったことで知られている。著書に『日本地図測量小史』などがあり、『山岳』五八年にも寄稿されている。所蔵する地図の中には、参謀本部に近い関係者でないといふ手しづらいものも含まれているのでその可能性が高い。地図は、陸地測量部発行の一万



図書紹介



滑志田 隆・著

『地球温暖化問題と森林行政の転換』



2007年12月
論創社発行
A5判 387頁
定価 3990円

「雨ニモマケズ」の詩人、宮沢賢治は1932(昭和7)年、雑誌「児童文学」に発表した「グスコブドリの伝記」に、大気中の二酸化炭素濃度の上昇が気温を一時的に高めることを織り込んでいる……という書き出しで始まる本書は、児童文学どころか、たいした学術論文である。それもそのはず、本書は毎日新聞記者だった著者が、退職後大東文化大学法学部博士課程に提出した学位申請論文をベースに、新たな知見を得て加筆したものだからだ。本書の構成は、序

章と終章を除いて、八章からなる。第一・二章では、気候変動枠組条約が調印された92年の地球サミットで国際的に合意された「共通だが差異のある責任」の理念が、どのようなプロセスを経て97年の京都議定書に反映されたかを考察する。

第三・四章では、京都会議後の日本国内の政治過程の考察として、省庁間の権限争い、産業界、NGOの政治的綱引きに焦点を当てる。森林吸収源が二酸化炭素削減にカウントされることになった経緯も考察する。

続く第五・六章では、我が国の林業の現状と新たな森林整備目標の意義を考察する。また、政府世論調査の結果を参照しながら、地球温暖化問題に対する国民意識が大きく変化したことを検証。

第七・八章では、森林整備の新しい財源として注目される環境税

導入問題の政治過程を整理する。以上は、エンサイクロペディア的網羅性を以って記述されており、この分野の研究者には貴重な文献となることは間違いない。

しかし例えば、「森林吸収源」を二酸化炭素排出削減に加算することとは、京都議定書を批准させるための日本へのリップサービスであったと、世界のNGOでは言われている。EUでは森林問題は温暖化対策の主題とはならず、徹底した省エネ・新エネの道を取り、世界をリードしている。今後、省庁の利害を恐れぬ切り込み型の内容の続編が発刊されることを期待したい。

(西田 進)

中央大学山岳部 中央大学OB山岳会・発行

『目で見る中央大学山岳部の80年』



2007年10月
中央大学山岳部・OB
中央大学山岳部
B4判 71頁

近代登山の草創期に旗揚げをした学校山岳部はここ数年で創立80

年を迎えたところが多い。中央大学も大正15(1926)年、公認山岳部となり、時代の荒波を乗り越えてきた。

目次は「草創期の頃」、「一世紀に生きた川崎精雄さん」、「戦後山岳部再建のきっかけ」、「山岳部長20年・部員を愛した板倉勝正先生」など18項目に及ぶ。本のタイトルの通り、写真を見ながらキャプションを読むだけで中央大学山岳部の歴史がすんなりと頭に入り、時代が甦る。また70年、80年前の厳冬期や夏山の服装、靴やザック、スキー、冬テントなどの登山用具、学生たちの髪型までも鮮明で印象的だ。では、その年代を写真から追ってみよう。

「昭和10(1935)年頃の山岳部」——この数ページを見ているだけで当時にタイムスリップしてしまう。「戦後山岳部再建のきっかけ」の写真からは、敗戦から立ち上がるうとする若人の凛々しい姿とエネルギーを感じる。「念願の黒菱小屋」からは、各大学山岳部で小屋建設の機運が広がった時代を思い出させる。

「昭和20年代」——物資不足ながら戦争から開放され自由を謳歌し

ている学生達の澁瀬とした笑顔が印象的だ。

「昭和30年代」——登山ブームで山が賑わった頃だ。部員が大勢いて活気に溢れ羨ましい。

「昭和40～60年代」——まだキスリングが幅をきかせているが、ヘルメット姿も目立ってきた。

「平成の山」——ビッグウォール・クライミングや前爪付きアイゼンの活用でダブル・アックスでの氷壁・氷瀑登攀が普及した頃だ。

「海外の山」では依田孝喜氏のマナスルやヒマラヤ、アンデス、アラスカなど数多くの遠征写真が中大山岳部の力量を物語っている。

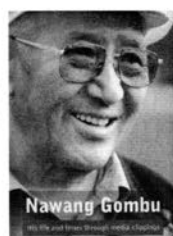
巻末資料として年譜がある。80年の歴史の中で昭和16年1月から20年末までの資料が焼失したのか空白がある。第二次大戦の悲惨さを改めて感じさせられる。

この10年刻みの編集は、各時代を視覚に訴えてくる心憎い演出だ。さすがマナスル登頂の記録映画を撮った依田さん、長年JACで資料・映像委員を務めている羽田栄治さんを輩出した山岳部だ。ビッグウォールで歴史を纏めたこの年史は、日本の近代登山変遷史とも言えよう。

(南井英弘)

Onomu Gombu・編

「Nawang Gombu — His life and times through media clippings」



2007年
Highlanders Design
Services発行
B4判変型 184頁
定価 Rs. 300.00

シエルパ・ナワン・ゴンブが登場する新聞・雑誌記事数百件の切り抜き集大成である。編者はナワンの三女。2月、ムンバイで開かれたヒマラヤン・クラブ創立80周年記念式典でナワン・ゴンブとその家族の出席の下で披露された。

冒頭に、目次代わりの略歴がある。ナワン・ゴンブは、タイガー・バッジ保有者の数少ない生き残りのひとり、テンジン・ノルゲイの甥であり、後継者としてダーズリンにあるヒマラヤ登山学校の第二代校長を永年務め、引退後はシエルパ仏教徒教会会長の職にある。少年時代、預けられていたチベット側のロンブク僧院を脱出して6000呎の峠を越え故郷であるネパールにもどった。

登山界へのデビューは、1953年の英国エヴェレスト隊で、最年少のシエルパとして17歳で参加

して、無酸素でサウス・コルに到達している。隊長のジョン・ハントと同行した荷揚げの途中、自分が2本担いでいる酸素ボンベを隊長が1本しか担いでいないのを見て「何であたかも2本担がないのか」と言つてのけたというエピソードの持ち主でもある。その10年後には、米国隊に参加して盟友となるジム・ウィットカーとともにエヴェレスト登頂者となる。さらに1965年のインド隊でも登頂に成功して、世界初の「エヴェレスト2度登頂者」となった。

多くの輝かしい遠征参加歴の記事と写真がある。興味ある部分も少なくないのだが、出典の誌名、掲載年月日など書誌的記載のないものが多く、不満の残るところだ。日本語の記事は1件で、昭和54年に朝日の武田剛特派員がダーズリンを訪問した折の会見記事が掲載されている。

(越田和男)

図書受入報告 (2008年5月)

著者	書名	ページ・サイズ	出版元	刊行年	寄贈/購入別
大森久雄	山の本 歳時記	173pp/20cm	ナカニシヤ出版	2008	出版社寄贈
佐藤守(編)	上ホロカメットク山雪崩遭難事故調査報告	57pp/26cm	JAC北海道支部	2008	発行者寄贈
小島正巳(編著)	妙高高原 赤倉温泉——開湯190周年記念・赤倉温泉と温泉組合	40pp/30cm	赤倉温泉組合	2008	編著者寄贈
川井靖元	山のベストショット撮影ガイド——この一冊でプロの作品が撮れる	183pp/25cm	山と溪谷社	2008	著者寄贈
Mee-Kkyung Park 他(編)	韓国の登攀についてのご案内: Mountain Korea	119pp/19cm	Hyecho Book Publishing	2008	出版社寄贈
勤労青年山の会(編)	われらが長征をたたかいとれ——勤労青年山の会 山行記録集	293pp/26cm	戦旗社	1989	渡辺陸氏寄贈
早稲田大学岳友会(編)	アルパイン・フォーラム(6)早稲田大学岳友会創設50周年記念特集	210pp/26cm	早稲田大学岳友会	2008	発行者寄贈



平成20年度第2回(5月度)理事会
日時 平成20年5月14日 18時30分～21時

場所 日本山岳会会議室

【出席者】 宮下会長、鯉坂・神崎各副会長、宮崎・吉永・成川各常務理事、齋藤・藤井・石橋・太田・堀井・相馬・山川・岡部各理事、深川・竹中各監事、近藤常任評議員、神長会報編集委員長

【委任】 古野理事

【欠席】 日下田・河野各常任評議員

【審議事項】

1・支部長の交代承認申請について(宮崎)

①北海道支部：長谷川雄助氏(6103)から滝本幸夫氏(5993)
②石川支部：津田文夫氏(6454)から中川博人氏(7463)

(承認)

2・支部助成金の変更(吉永)

支部事業の活発化および首都圏における支部化促進を一層支援す

るため、平成20年度限りの暫定措置として支部助成金とは別に所属支部員1名につき10000円(年間)を支給し、併せて適切な使途とその使途報告の指導徹底を図りたい。(承認)

【報告事項】

1・ヒラリ卿追悼「講演と映画の夕べ」報告(太田)

5月9日 会場満席(立見の者あり)の状況、盛況裏に行なわれた。

2・自然保護関係活動資金受領報告(山川)

自然保護委員会では以下の協賛金、助成金を受領した。

●(株)松竹より映画宣伝グッズ販売収益の一部として18万1929円
●(財)自然保護助成金基金より金76万5000円

3・(社)日本山岳ガイド協会通常総会にともなう懇親会の案内(宮崎)

5月20日に開催された。宮下会長、宮崎常務理事が出席。

4・平成20年度第1回評議員会開催予定について(宮崎)

(財)自然公園財団で6月11日に開催される。宮下会長(同財団評議員)が出席予定。

5・平成20年通常総会の開催について(宮崎)

福岡支部が5月17日に開催する。
6・英国・王立地理学協会からメダル受賞の報告(宮崎)

中村保会員が英国・王立地理学協会より「Busk Medal 2008」授与の通知を受けた(授与式は6月2日にロンドンで)。受賞の対象は「ヒマラヤの東―チベットのアルプス」の探検と地理的調査。この王立地理学協会のメダル受賞は日本人初。

7・第2回学生交流登山の日程について(吉永)

日中韓三国の学生交流登山を8月17～24日の間開催する旨の連絡が韓国山岳会から届いた。学生部では、この日程で進める予定。

8・ネパール・登山料の改定(宮崎)

ネパール政府観光省は7月17日以降、一部登山地域の登山料を改定した。

①西部、極西部に属する山々全てのシーズンを通じて無料

②その他の山々(エヴェレスト、アマ・ダブラムを除き) 秋期(9～11月) 5割値下げ、夏期(7～8月) 75割値下げ、冬期(12～1月) 75割値下げ

9・「会員名簿」作成作業(宮崎)

11月初旬完成を目的に総務委員会で準備を進めている。

10・希少野生動植物保護管理事業における植生復元事業実施報告書(宮崎)

国土交通省中信森林管理署から報告書が送付された。

11・第62回ウェストン祭の開催について(宮崎)

信濃支部から開催要項が送付された。6月1日の行事には宮下会長、宮崎常務理事、岡部理事が出席予定。

12・東海支部総会開催(鯉坂)

5月10日に開催、鯉坂副会長が出席した。

13・日本山岳会ヒマラヤ環境調査隊帰国報告(山川)

4月23日～5月15日、イムジャ氷河周辺での環境調査とトレッキングは予定通り行なわれ多くの成果を上げて無事終了した。

14・自然保護全国集会実施報告(山川)

4月19日・20日に開催され、全国から多くの方に参加していただき盛会であった。郵送でお願いした「山の環境アンケート」は、多くの会員に協力いただきよい結果が得られた。会報で報告する予定である。

15・会報『山』5月号編集報告

(神長)

16・平成19年度監査報告(深川・竹中)

4月15日、竹中・深川両監事が吉永常務理事、岡部理事立会いのもと平成19年度収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録および創立100周年記念事業特別会計決算と業務について監査を行ない、適正に執行されている旨報告された。

17・同好会・同期会連絡会開催

(宮崎) 6月16日に開催する。

ルーム日誌 5月

- 1日 海外委員会
7日 常務理事会 山岳地理クラブ
8日 図書委員会 1001会
9日 高尾の森づくりの会 学生部
12日 総務委員会 アルパインスキークラブ
13日 アルパインスケッチクラブ
14日 理事会 山想倶楽部 アル

15日 パインスキークラブ 休山会
科学委員会 山の自然学研究会 二火会 95会

16日 総務委員会 集会委員会

17日 支部長会議

19日 総務委員会 資料映像委員会

20日 会 アルパインスケッチクラブ

山研運営委員会 緑爽会

ゆきわり会 アルパイン

スケッチクラブ アルパ

インスキークラブ

21日 指導委員会 三水会 つくも会

22日 山遊会 アルパインフォト

ビデオクラブ

23日 海外委員会

27日 インターネット小委員会

千葉支部 ゆきわり会

28日 自然保護委員会 緑爽会

麗山会

29日 アルパインフォトビデオクラブ

30日 山の自然学研究会

31日 指導委員会 新土曜会

5月来室者561名

会員異動(5月)

物故

前田宗寿 (4660) 08・1・16

横山雪男 (2354) 08・3・2

坂井八郎 (8289) 08・4・2

久保三朗 (4079) 08・5・11

千葉庸治 (11054) 07・12・19

退会

小松文字 (4531)

西岡 健 (5965) 関西

齋藤敏男 (6452)

吉見良一 (8215) 広島

若林隆三 (8260) 信濃

太田 昭 (8540) 富山

濱田 宏 (8719) 京都

上野寿一 (8841) 越後

佐竹春江 (8907)

鈴木壽男 (9258) 福島

平野 修 (9710)

梶田 正 (10072) 富山

折茂伸平 (10164)

野田 裕 (10318) 福岡

矢野清夫 (10486)

蜂谷益雄 (10897)

近田孝夫 (11041) 東海

佐藤英二 (11410)

庄司 進 (11917)

橋本 隆 (12507)

猪股博良 (12776)

山下建治 (12879)

伊東 清 (13119) 北海道

佐藤清一郎 (13488)

政木通弘 (13912) 東海

西田克己 (13929) 東海

吉住堯宇 (14116)

終身会員

黒柳満義 (6330)

I N F
O R M

インフォメーション

A T I
O N

◆第37回山岳史懇談会「群馬県山岳連盟のヒマラヤへの挑戦」

図書委員会

世界屈指の登山家集団と称され、トップクラスの岳人たちがヒマラヤに挑戦した「群馬岳連」。そのなかについて、常に強力な磁場としてリードしてきた八木原園明氏に、その歩みと強さの秘密や、個性豊かなクライマーたちの肖像にもふれていただきます。

日時 7月14日(月)18時30分より
場所 山岳会集會室
問合 三好まき子まで (TEL) 049-262-10486

E344mm@mbe.nifty.com

◆薬師岳・水晶岳・烏帽子岳を行く

集會委員会

花の季節に折立から薬師岳、水晶岳、烏帽子を縦走します。

日程 8月9日(土)～8月13日(水)4泊5日

宿泊 山小屋利用
費用 5万2000円(山小屋宿泊代、保険、現地交通費他)

定員 9名

現地集合・解散

申込 7月10日までに、ハガキで

横山重雄宛 (TEL) 168-0007 杉並区

下高井戸5-14-2

*申込者に詳細案内を送ります

◆魅力たっぷり八丈島自然観察会

自然保護委員会

日時 8月24日(日)～25日(月)

集合 現地(八丈島)

宿泊 民宿 柳家荘

費用 8000円

定員 25名

申込 7月15日までに、ハガキで

メールで川越尚子まで

(TEL) 185-0011 国分寺市本多3-17

31

Ekawagoejac@mtu.biglobe.ne.jp

*申込者に詳細案内を送ります

◆資料映像委員を募集します

資料映像委員会

創立100周年を迎えた日本山岳会とは、どのような会でしょう。それは、先人の遺された資料や映像から知ることが出来ます。これは、それぞれの時代を映し出す歴史そのものであり、かけがえのない山岳会の財産なのです。

資料映像委員会は、これらの保存と管理を行ない、独自の山岳文化を継承していくために活動しています。

このたび、年々増えつつある資料や映像の本格的データベース化を行なうことになりました。ついては、その準備を進めるにあたり若干名の委員を募集いたします。ぜひ私たちのお手伝いをしていただませんか。

なお、資料映像委員会の活動の詳細については会報『山』750号、JACのHPを参照ください。問合せは羽田栄治 (TEL) 03-3339-93975

◆第15回上高地インタープリテーション

山の自然学研究会

期間 8月1日(金)～15日(金)

メールマガジン「日本山岳会だより」

読者募集中!

インターネット小委員会では、当会関係のイベントの案内や告知、山関連の最新情報をメールでお届けしています(無料)。

このメールマガジン「日本山岳会だより」をご希望の方は、下記へ申し込みください。

*申込みアドレス=jac-mlmag@jac.or.jp

*必要記入事項=会員番号、氏名、メールマガジンを受けるメールアドレス

なお、バックナンバーが当会ホームページの会員ページに掲載されています。(インターネット小委員会)

■ガイドウォーク(ビクターセンタを拠点として、大正池、明神小梨平方面を案内します)

■ミニトーク(時間19時30分から、場所1温泉ホテル、アルペンホテル、西糸屋山荘で毎晩開催)
■こどもスケッチ会(アルパインスケッチクラブ会員の協力を得ての情操開発プログラム)

期間 8月4日(月)～7日(木)
問合 古田寛昭まで

(FAX) 04-2294-915631

furutah@rivo.mediatu.net

●さんけん通信●

開所は森のにおいに迎えられて

山研管理人 内野慎一

管理人になって4シーズン目を迎えました。今年は暦の関係で開山祭から宿泊開始までの日程がタイトだったこともあり、いつもより早めに準備を始めました。

毎年のことですが、シーズン初めに穂高と対面するときは、そびえる岩壁の迫力に圧倒されます。山研に向かう道、カーブを曲がって目の前に穂高が現われると、思わず「ふーっ」「うわーっ」「はあー」など、言葉にならない声がついこぼれてしまいます。

今年の開所は、新しいにおいと遭遇しました。それは強い森のにおいです。山研に着いた瞬間、濃密な針葉樹の香りに包まれ、「このにおい？」と思わず顔を見合わせました。久しぶりの山研だったから感じたのか、あるいはちょうど木々が眠りから覚めてにおいを強く発する時期だったのか……。その場の空気を何倍にも濃縮したのではないかと思われるほど強いものでした。自然の奥深



芽吹きが始まり

くに入って来たことを、改めて感じた瞬間でした。

4月26日、27日の開所作業は、15人の方のご尽力で順調に進みました。とはいえ、残雪もそれなりにあったので水源では例年同様の雪掘りや、落ちていた太い枝の片づけなど、冷たい雨の中の作業となりました。

ゴールデンウィーク中は天気がよく、温度が上がり、雪解けがどんどん進みました。穂高の雪の上で幕営された方に聞くと「張り綱の支柱を雪にしっかり差し込んでおいたのに、日中に緩んでぐらぐらになってしまった」ということでした。でも、そんな暖かい上高地でしたが、5月10日にまた雪が降りました。めったにない連休明けの雪でした。

今年も皆さまとお会いできることを楽しみに、新緑の上高地でお待ちしています。

◆小泉武栄教授の巡検参加者募集

山の自然学研究会

楽しい知的登山を提唱されている東京学芸大学教授・小泉先生と、浅間山の噴火後の植物再生の変遷を観察します。巡検場所は、車坂峠から黒斑山です。

日時 9月7日(日)

定員 25人(往復チャーターバス利用)

費用 約7000円(バス代含む)

集合・解散 JR国立駅

申込 7月末日までに、榎田 勁宛

(FAX) 045-99623786
✉ kei35@gf6.so-net.ne.jp

◆剣岳放射状登山

ゆきわり会

北アルプスの名峰、剣岳を心いくまで眺め、周辺を散策する山旅です。

期日 8月1日(金)〜6日(水)

行程 集合場所は剣沢

期間中剣沢に滞在し、日帰り

りで①別山尾根、②立山、

③奥大日岳など周辺の山に登ります。下山は室堂の

ほか仙人池経由もあり

参加費 交通費、宿泊費各自負担

申込 問合 氏名、住所、電話、メ

メールアドレスを記入して、7月10日までにメール、FAX、ハガキで皆川恵男(TEL & FAX 042737313003)まで
✉ minagawa_yasuo@ybb.ne.jp
* 申込受付後詳細案内します

◆日本山岳画協会08年定例展

山を愛し自然の詩情を描きつづける洋画家たち16名による作品約60点を展示します。

会期 6月29日(日)〜7月5日(土)

11時〜18時30分(29日は正午から、5日は17時まで)

場所 東京交通会館 B1階ゴ

ルドサロン (TEL 031321517933)

問合 牧潤一まで(画室 TEL 049126417369)

日本山岳会報 山 757号

2008年(平成20年)6月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビューハイム四番町

TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441

発行者 日本山岳会会長 宮下秀樹

編集人 神長幹雄

Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp

印刷 株式会社 双陽社